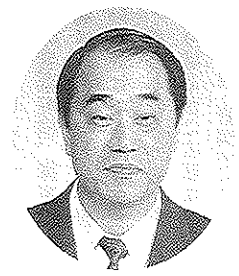
静岡大学理学部同窓会会報
NO.17
発行所
静岡大学理学部同窓会
静岡市大谷836
静岡大学理学部内
Tel 054-237-1111(代)
会長 赤池大樹

心が大切にされる時代に

会長 赤池大樹



同窓生の皆さま、お変わりなくご活躍のことと拝察いたします。

いよいよ二十一世紀を迎えました。この百年を振り返ってみますと、国内では明治の後半から大正、昭和そして平成と時代が移り変わりました。戦争そして敗戦、戦後の復興と世の中が大きく変わりました。私が静岡大学を受験しましたのは、昭和四十年の三月末で滋賀県の米原から準急という電車で静岡へ向かいました。前年の十月に東京オリンピックが行われ、新幹線や高速道路が急ピッチで整備されました。しかし、私たち庶民には、特急電車に乗ることは夢でした。また、車を持つことも夢でした。下宿生活では、電話はもちろんなく、テレビもありませんでした。家庭教師をして、奨学金をいただき、やっとのことで大学を卒業し、そして就職しました。ほとんどの大学生がそうだったと思います。

しかし、この四十年の間に、物質的なものは言うに及ばず、自然界もまた人の心も、世の中のあらゆるものが大きく変わりました。我々の生活が便利になり、豊かになったことは事実です。しかし、大きなものを失ったこともまたこれ事実です。その大きなものとは人の心ではないでしょうか。私は高校の教師をしております。この三十年、十六・七・八歳の高校生を日々見つめてきました。学校によっても異なるでしょうが、何のために高校に来るのかという目的意識があまりない子供が多くなったように思います。だからこそ学習意欲がない、学校生活が乱れる、勉強が分からなくなり非行に走りそして退学していきます。高校への進学率の向上も一因でしょうが、それよりも豊かな生活環境の中で、人としての心が十分育っていないからではないでしょうか。

「衣食足りて礼節を知る」という言葉を高校時代に学びました。私たちは貧しかったのでこの言葉を信じて、一所懸命努力しました。がまんもしました。欲しいものがあっても、お金が貯まるまで待ちました。そして手に入れたものを大切にしました。それがいつのまにか大量消費の使い捨て時代になってしまいました。夫婦共働きとなり、鍵っ子という言葉も生まれました。進学率が高くなり学歴社会と言われ、塾が大繁盛しました。青少年をターゲットにした商品や商売が多くなりました。このように、我々大人社会に今の青少年を育てた責任があると思います。「衣食足りて礼節を失う」のでしょうか。決してそうではありません。衣食足りる過程で心を大切にしてこなかったからだと思います。売れさえすればいい、お金さえ儲かればいいという心が現代社会を作ったのではないでしょうか。

さて、二十一世紀を迎え、心新たにして過去を振り返り、物やお金よりも人の心が大切にされる時代になることを願わずにはおれません。親を大切にする心、友達を大切にする心、目上を敬う心、体の不自由な人を大切にする心、年寄りを大切にする心、そして他人を大切にする心、また、自然を大切にする心、動物や植物などの生き物を大切にする心等々、ぬくもりのある暖かい心のあふれた社会になってほしいと願います。一人一人が自己中心的な人間本来の姿に気づき、明るく住み良い社会になることを願います。

最後にある本で読んだ実話の一場面を紹介させていただきます。非行に走った息子にその父親が言いました。

「お金も十分持たせているし、自分の部屋も与えている。テレビもステレオも買ってやった。お前が欲しいものはなんでも買ってやったのに、一体何が不満なんだ。」息子は父親に向かって叫びました。

「だって家には宗教が無いではないか。」

静大理学部の近況報告とお願い

理学部長 天岸祥光

学部長をもう一期務めることになったため、昨年に引き続きこうして皆様にご挨拶をさせていただくことになりました。昨年は確か、独立行政法人化問題を主に述べさせていただいたはずですが、今回は別の話を二つさせていただきます。

一つ目は、朗報と言っていいでしょう、新棟建設に関することです。理学部は静大の中でも最も狭隘な環境での教育研究を強いられてきたとの思いから、この二年間新棟建設運動をいろいろな形で展開してきました。それが実って平成十二年度補正予算で新棟建設が認められました。といいましても、理学部新棟というネーミングではなく、「総合研究棟」で、全学共同施設の機器分析センターと同居です。五・五五〇平米七階建てで、理学部はその内五階分を使います。場所は理学部と図書館の間の、いわゆる学園広場です。これと連動して、旧教養部棟（共通教育棟と呼んでいます）に約一・〇〇〇平米の面積を理学部として確保しましたので、教育研究環境は今後かなりよくなると思います。

さて、このことと関係して、理学部同窓会の皆様に是非お願いしたいことがございます。新棟建設予定地にはなかなか見応えのある樹木が数多く育っていまして、しかし、大きい木は植え替えに費用がかかることと、植え替えても枯れてしまうことが多いことから、大学施設課からは大樹は伐採するという方針が打ち出されました。私は樹木伐採反対派ですが状況から伐採もやむを得ないとは思いつつ、一番大きいメタセコイア一本とヒマラヤスギ一本の二本だけは何としても生かしたいものだと思案し、一つの結論を出しました。それはこれらの大樹を用いて彫刻作品を作ってもらい、後世に残すという案です。

彫刻家としては、国際的に有名な田辺光彰氏がこの話を聞いて協力して下さることになり、それも報酬を度外視してやって下さるとのことでしたが、そうは言っても全く謝礼無しと言うわけにもいきませんので、その点を同窓会にご相談させていただきたいと思っている次第です。何卒ご理解とご協力のほどをお願いいたします。

二つ目は、四〇年前（文理学部時代）の謎解きの話です。おそらく今回その記事が同封されているでしょうから詳細は省略しますが、理学部の長い歴史の中にはこんなこともあったのだということを思うと感慨無量です。この件に関して何か別の情報をお持ちの方はどんな些細なことでも結構です、私の方にお知らせ下されば幸いです。今まで寄せられた情報から、文中の「体育館」での葬儀は「臨済寺」の間違いであること、尾瀬の絵はもう一枚あることがわかりました。

以上二点のご協力をお願いしてご挨拶とさせていただきます。

職場紹介

「新しい職場に勤務して思うこと」

岐阜県教育委員会
研修管理課勤務
鈴木康博（数学科）

私は、昭和五二年の三月理学部数学科を卒業し、その年の四月に岐阜県の高等学校の教員に採用されました。それ以来四校に勤務しましたが、異動によって昨年四月より、岐阜市にあります総合教育センター研修管理課に勤務しています。仕事の内容は、教職員研修の企画・運営と、指導主事としての学校訪問や教育課程研究集会、県数学教育研究会主催の各種会合への参加などです。単身生活のこともあり、この一年間生活環境や職場環境に慣れるのに大変でしたが、教育改革や情報化の進展に伴う数学教育の在り方について考えさせられました。

さて、「理数離れ」、IEAの調査結果に見られる「数学嫌いの生徒の割合が他国に比較して多いこと」、「新学習指導要領実施に向けての学力問題」など、今日ほど数学教育に対する大きな課題を有する時代はなかったように思います。時代が変わり生徒の数学に対する価値観や興味・関心が多様化したとはいえ、「数学の面白さや美しさ、有用性などをいかに生徒に伝えていくか」は、我々教師に課せられた課題であると考えます。数学を学んでみたいという思いで、入学した静大理学部、大学二年次に受けた近藤先生の解析の講義（ルーディンの解析学）、石井先生の位相数学の講義、小崎先生の多様体の講義など、高校数学とは違った数学的な考え方にインパクトを受けるとともに、新鮮さを覚えたものでした。理解しようと下宿で友と議論し、分かったときの喜びは今でも忘れません。「数学を学ぶとはどういうことであるのか」このことを考えるヒントは、ひょっとすると、静大理学部で学んだ四年間にあるかもしれません。多忙な仕事に追われる中、大学時代に立ち返って、今日、数学教育が抱える課題について考えてみたい。

（第九回卒）

同窓生の窓

『音・音楽で社会貢献』を企業理念とした会社に勤めて

数学科　古田広明

はじめまして。私は、理学部・数学科の卒業生です。卒業して既に十七、八年の歳月が経ちます。そこでこの場を借りて、私の勤めます『ヤマハ』について職場紹介を交えて触れてみたいと思います。

歴史をひも解いてみますと、一八八七年山葵寅楠さんを創業者とし一世紀余に及ぶ企業活動を持ち、地元の企業としては古い内の一つに挙げられるかと思います。『ヤマハ』と言って思い浮かぶ事としたら、多分『バイク』、『ピアノ』、『エレクトーン』、『音楽教室』等がありますね。実はその他にもミニコンポ等のAV機器や、パソコンやゲーム機の中に組み込まれた音源用半導体も事業にしていますし、若い皆さんには馴染みのあるでしょうがWeb上での音楽配信、携帯電話の着メロ音源なども手掛けている会社でもあります。

そうした事から、創業期よりはるかに広範な事業と共に『音・音楽で社会貢献』しているものと思っています。

さて、私の職場のことに少し触れてみます。

業務は、業務用音響機器の設計・開発を行っています。『業務用音響機器』として、放送局やコンサート運営会社等の音響機材とかホール、公共施設、宴会場等で使用される機材を扱っています。

世間一般の認知も薄い業種でありますが、音・音楽を単に拡声するだけでなくミックスしたり、より自然な響きを付加して人の耳に届けると言う重責を担っていると最近ようやく思えるようになりました。

ところで人の聴覚は、対数的な反応を示すのをご存知ですか？

そうした感性を踏まえて、上記のミックスや響きをDSP(Digital Signal Processor)で表現するのが私の仕事であります。今思いますに、「学生時代に数学の授業をしっかり聞いて基礎を十分に身に付けておけば、DSPを扱うのにこんな苦労はなかっただろう」と…

最後に、感性と数学とは変な取り合わせに思えますが、ヤマハならではの仕事です。

また、未熟なためまだまだ勉強中です。

第十五回卒

無題

物理学科　小原茂樹

私は、九六年に理学部物理学科を卒業し、現在NTTコミュニケーションズに勤務しています。

ちょうど卒業して五年になろうとしています。近況報告を兼ねて、卒業後の足取りを紹介したいと思います。

九六年春、分割前のNTTに入社し、名古屋で専用線（主に法人向けのサービスで、電話とは異なる固定された通信用回線）の故障受付業務を担当しました。いわば、NTTの技術窓口といえる仕事で、苦労した反面、通信技術の基礎を固めることができました。その後九九年に当時のNTTが四つの会社に分割し、現在のNTT（持株会社）・NTT東日本・NTT西日本・NTTコミュニケーションズ（長距離・国際通信会社）となりました。私の場合、当時自分の所属部署にあわせてNTT西日本に転属となりましたが、仕事自体は同じものを続けていました。しばらくして、国際関連の業務で人を募集している話があり、それに名乗り出ました。その結果として、二〇〇〇年四月にNTT西日本からNTTコミュニケーションズへ転勤になりました。

現在の仕事は、国際電話用設備の運用・保守、勤務地は東京の大手町（東京駅から皇居側へ徒歩一〇分程度）です。国際電話用設備のため、各国の電話会社の担当者と連絡をとる必要があります。コミュニケーションはもちろん英語。

「英語は世界の公用語」であることを、肌で（耳で？）感じることができます。イギリスやアメリカ等の英語圏以外の国との会話では、お互いが母国語でない英語を使うため難しい表現は使えません。Yes／NoやGood／Badといった単純な言葉のやりとりになることもしばしば。これが「世界の公用語」の現実のようです。

通信業界全体が、大変早い流れにあります。この流れについていくことは大変ですが、良い意味で刺激的でもあります。いずれは自分で流れを作り、先導していけるようになりたいと思います。（でも、疲れた時は静岡の温泉ですね、やはり。）

第二十八回卒

無題

化学科　徳元香代子

二〇〇〇年九月、理八五Cの元乙女達が熱海に集結（八人中七人）。日常の様々なしがらみを振り切って温泉お泊り会を敢行した。言い出しっぺのゆう太、幹事をしてくれた淑子ちゃん、仕事と家庭を頑張るちーぶと真由美ちゃん、手の掛からぬ子を持つ伸さん、日を間違え皆が寝てから到着したモコちゃん（真紀ちゃんは欠席）。お酒を飲まなくてもお喋りで酔い、楽しい夜は更けた。私達も老けた…。気分はハタチの大学生なのに!?

二〇〇〇年は激動の年だった。親不知四本抜歯を決意。が、当日は痛みの恐怖に震え、トホホな姿を披露（先生ごめんなさい）。痛み止めをバンバン飲み、胃を壊した。そして、夫は整体院を開業。私は受付をすることに。今日も笑顔で患者さんを迎えます。（宣伝）徳元整体、JR大船駅東口徒歩三分。ボキボキしないナイスな矯正。どうぞいらっしゃいませ。（おまけ）誰か理八五Cの名簿、作って配って～。

第二十一回卒

学科の窓

生物学科　北川岳夫

大学を卒業し、製薬会社（ウエルファイド）に入社して以来、学術・企画・新規事業・血液事業等の部門をこなして来た。大学で学んだ論理的な発想法は、仕事の上でも武器になったとの実感がある。

仕事の関係から話題を一つ。本来、血液は、薬剤エイズで世に知られたHIVをはじめ、HBV・HCVなどのウイルスの温床となっている。それ故、血液製剤の製造に当たっては、最初に核酸増幅検査により陽性バッグを排除、次の製造工程で徹底したウイルス不活化除去を実施し、安全確保に努めている。ところが、数年前から、英国を中心に狂牛病にかかった牛の肉を食べた事が原因で、クロイツフエルトヤコブ病が急増した。この病気は、ウイルスではなく異常なプリオン（蛋白質）が、中枢神経に蓄積し、急激な痴呆と死をもたらす。診断も治療手段もないのが実情である。今のところ、血液を介した人から人への伝播は知れていないが、輸血や血液製剤での伝播を警戒し、万全の予防処置がとられている。最近、欧州で、再び狂牛病が増加、世界中が警戒を強めている。

第一回卒

土の中

地球科学科　宮副高貴

文筆活動に無縁だった私に、原稿依頼が来たのは、締め切りまで十日もない、ある夜のことだった。

酔った勢いで依頼を引き受けたものの、さて、どんな会誌だったか思いだせない。ここは、ひとまず酔った勢いで（失礼）ランダムに書かせていただく。

私は、大学卒業後、地質関係のコンサルタントに就職した後に建設会社に転職した。

建設会社では、地すべり防止関係の仕事に従事することが多いので、卒業後も、ほとんど土いじりをしている。そんなこんなで、土の中のことについて書かせていただく。

長野県の某山の中で地質調査のためボーリングをして、コアを採取した。コア判定のため深度十数mからとれた泥岩のコアを割ったところ、中に巻貝の化石が入っていた。他にもないかと丹念に調べたが、残念ながら発見できなかった。広い山の中、たった六十六mmの穴をあけた中にたまたまいた貝には悪いことをしたと思っている。数千万年来の安眠を妨害してしまった。

何のへんてつもない山が突如、一日数cmのオーダーで動き始めた。杉林の中に亀裂ができ、一年も経たないうちに十m弱の崖が現われた。そんな地すべり地内で調査ボーリングをしたことがあった。ボーリングを掘り、翌日続けて掘ろうとすると、途中から穴がない！昨日掘った深度よりも浅い深度から掘りなおしをした。更に翌日、また、穴がない。同じことを数日繰り返した後、調査ボーリングは終了した。穴はつぶれたのではなく、地すべりのすべり面より上の土塊が斜面下方へ移動したため、すべり面より下の昨日まで掘った穴の位置とすべり面より上に残っている穴とが、一致しなくなったわけだ。すべり面の下に、穴が、一列に点々と並んでいる状況を思い浮かべると、なんだか面白い。と書いているうちに紙面が尽きた。ここでキーボードをたたくことをやめることとする。

第五回卒

〈静岡大学理学部同窓会会計報告〉

一般会計

2001年2月12日

	項目	平成10年度	平成11年度
収入の部	前年度繰越金	2,716,582	3,768,499
	年会費・寄付	1,783,000	1,546,500
	名簿代	1,500	660,000
	受取利息	3,482	21,388
	収入の部合計	**4,504,564**	**5,996,387**
支出の部	通信費	311,130	661,302
	印刷費	237,720	113,820
	事務用品費	18,480	0
	備品代	0	0
	会議費	22,680	39,742
	旅費交通費	21,500	22,360
	送料	14,555	21,895
	その他	110,000	0
	特別支出	0	2,000,000
	積立金	0	0
	支出の部合計	**736,065**	**2,859,119**
差引残高		**3,768,499**	**3,137,268**

特別会計

	項目	平成10年度	平成11年度
収入の部	前年度繰越金	12,817,508	12,839,352
	一般会計より繰入	0	2,000,000
	その他の収入	0	240,695
	利息	21,844	19,334
	収入の部合計	**12,839,352**	**15,099,381**
支出の部	50周年記念事業寄付	0	2,000,000
	記念コンサート		4,661,065
	総会・懇親会	0	353,207
	支出の部合計	**12,839,352**	**7,014,272**
当年度残高		**12,839,352**	**8,085,109**
備考			50周年記念事業寄付 総会・懇親会 記念コンサート開催

事務局より

「同窓会報」は、毎年この時期に年一回発行して、今回で十七号になりました。

十七年前とは違って、教育界は、激動期を迎えています。大学入学から大学院修了まで様々な改革が目白押しです。日本全体がそうなっているので、仕方がないことなのかもしれませんが、本物の改革を実施しないと、とんでもないことになってしまいます。急激な改革と緩やかな改革を使い分けていないような気がします。

母校静岡大学も例外ではなく、一昨年の創立五〇周年前後から、生き残りをかけて動き出しています。

理学部同窓会も、役員の高齢化が進んで（？）、一昨年の総会で決定した事業計画も、今年度は何一つ実行に移せませんでした。この場を借りてお詫びいたします。

理学部同窓会の一番の問題点は、「役員後継者の育成と同窓生教官との交流」であると思います。同窓生教官と一緒になって理学部同窓会のこれからを充実させていくことが急務だと思います。同窓会への意見、提案をどしどしお送りください。

［野口和広］
e-mail:
nknhnana@mxj.mesh.ne.jp